

日本民衆史に残る被災の体験

東日本大震災は千年に一度 ぶつた名取市の小原さん、津

という経験で、このとき庶民 波に流されながら生き延び、

「供養碑の下の石を拾い集め

この記録には仙台市での地

知ることは、私たち民衆史に 震の経験も記されている。と

くに高層マンションでの震度

である。そうであれば日常不

携わるものにとつて極めて重 6の揺れの報告は、首都直下

型大地震が近いときさやかれ

断の覚悟を持つことが必要な

要な機会である。本書は巨大 地震、大津波、原発事故に遭

ている今、それに備える人々

記録という点から言えば、

遇した71人の被災者が、直後 には万感の思いをこめて記録し

うした事態に備える行政の準

備は大丈夫だろうか。市民ひ

たものだけに特別の価値をも たりひとりの心構えも問われ

ている。

残してほしいと思う。

「おじいさんは大好きな海 大震災ではおびただし帰

宅難民が出た。また、起こる

可能性の大きい住宅火災の広

に帰ったんだ」と祈るように 浪江町の新田さん、「真実

は避難者には知らされない」

（南相馬市の池田さん）、「政

ん、「祖母の手を放してしま 府も誰も信用できない」（福

島市の嶋原さん）。なんと

い

七ヶ浜町の渡辺さん、「夢半 ばで逝った息子を想う」とつ

島市の嶋原さん）。なんと

い

